



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2013年1月1日

1月号・第132号

奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲



§ § § § §

Contents

§ § § § §

新年を迎えて.....	①	里山の今.....	⑪
リレー随筆・お元気ですか！.....	②	やさしい昆虫講座⑦.....	⑬
蕎麦祭り.....	③	鳥シリーズ&地域情報.....	⑭
佐保自然の森の植樹.....	④	美味旬感・奈良学クイズ.....	⑮
彩りの森の植樹.....	⑤	Galleryならやま.....	⑯
芋煮会.....	⑥	自然俳句.....	⑰
当尾の里探訪.....	⑦	癒しの散歩道&ならやま茶論.....	⑱
蘇我氏の興亡跡・明日路.....	⑧	青垣春秋.....	⑲
宮跡庭園・古梅園・率川神社.....	⑨	ならやま景観整備&情報BOX&行事案内.....	⑳
Monthly Repo.ならやま.....	⑩	幹事会報告・ペン画に寄せて・編集後記...	㉑

新年明けましておめでとうございます

会長 藤田秀憲

年頭にあたり、今年の課題について申し上げます。

まず昨年秋、「ならやま」にもカシノナガキクイムシの飛来があり、ナラ枯れが発見されました。ただちに枯死木は伐採し、薪にして焼却処理をいたしました。今年は早期発見と被害木の迅速な処理が必要となるため、監視体制の強化と薪割り機を購入いたしました。ナラ枯れ被害の拡大防止とコナラ老齢木の活用策として椎茸のホダギ作り、薪作り等にも積極的に取り組みたいと思います。

次に、昨年秋から3年計画で第5地区の整備に取りかかりました。これを機に、ならやま全体の観察路の整備と定期的な点検と観察を実施し、「ならやま」の生物生息環境の整備と希少動植物の保全に取り組んでまいります。

さらに、私たちがいつまでもならやまで「明るく！楽しく！元気に！無理をせず！」活動出来るように、動力運搬車の導入等、作業環境の整備も必要と考えています。

最後に、会員相互の親睦や交流だけでなく、私達の活動を地域社会に拡げていくためには、会報誌およびホームページの活用は欠かせません。特に、私達の活動記録、写真、資料等を整備保存し、会報誌やホームページを通じて各方面に情報発信していくことが、会の発展に大きく寄与するものと思っています。

今後とも、三つの活動部門に渡って積極的にご参加いただくとともに、会報誌やホームページへの投稿や資料の提供につきましても、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

初 春 雑 感

副会長 森 英雄

5年前の入会時に毎週集まったのは20人程。今は常に4～50人。隔世の感がする。世代・経歴などが異なる個性豊かな人たちの集う大集団となった。会の旗の下、協調しあい得意な分野で力を出しあって、ここまで発展してきたと思う。ありがたいことである。今、少し気になることがある(自戒も込めて)。その基本となるべきコミュニケーションの不足と、他人・他の仕事に対する理解不足。このところ会員から期せずして「みんな違ってみんないい」

「One for All, All for One」という言葉が立て続けに出てきた。そう感じさせる雰囲気があるのであろう。杞憂であればいいが。…… この会には「野良の会」というノミニケーションの場もあります。皆さん、覗いてみて下さい。楽しくだべりましょう！… 今年も飲むぞ！またしても酒の話になったか！



新たな10年を目指して

副会長 豊島すみ子

皆様明けましておめでとうございます。

いつもならやまや例会初め多くの活動にご参加いただきありがとうございます。2012年度は、10年目という節目の年を迎え、多くの会員の皆様のご参加で社会的にも大変評価をいただき、うれしいことが続いた年でした。私自身はなかなか思うように参加できませんでしたが、参加したときには、自然に輪の中に入れていただき、楽しい時間を過ごさせていただきました。

ならやまをベースキャンプにして、山の手入れや四季折々の野菜やお花を育て収穫すること、また様々なクラブ活動など、多彩な活動が日々活発に進められています。どんな希望もならやまでなら叶えられそうな気がします。

新年にあたり、奈良・人と自然の会に集う全ての人たちが、楽しく心豊かな日々を送れますよう、またならやまが大人の居場所として、益々充実しますよう心から願っています。



土偶の謎 土偶・コスモス 田 彰子

土偶より砂の涙や寒昂 (彰子)

土偶・土器、総数320点が、MIHO MUSEUMに展示された。

先史・古代の人たちが作った土製の人形、人面のことを土偶という。

コスモスを訳せば「宇宙」で、想像力やインスピレーションを刺激する要素があり、「秩序ある宇宙」という意味もあるようだ。

縄文時代の土偶は、豊かな表現と溢れるばかりのたくましい生命感のみなぎっている素晴らしいアートである。文字のなかった縄文人の暮らしを読み解く、貴重な手がかりでもあり、想像力が刺激される。

土偶を祭神に捧げ、願いが叶えられるよう祈った。そして、役が終わると砕かれた。縄文人の土偶に託した願いは、何だったのだろうか。土偶の存在自体が、いまだ謎である。

長野県の棚畑遺跡出土の「縄文のビーナス」は、豊かな女性を立体的に表現している。両手を水平に広げたポーズをほとんどの土偶はとっているが、力強さに満ち満ちている。

中期から後期にかけて三本指の土偶がある。

「3」の数字に何かの意味があるのだろうか。日本文化には時代を超えて奇数へのこだわりがあり、縁起がよい数とされている。

縄文に光を当てたのは、岡本太郎である。「進歩と調和」をモットーとする大阪万博で手がけた「太陽の塔」は、まるで巨大な土偶のようでもある。



気軽に自然に親しむ 和田美紀子

会員と言いながら、なかなかフィールド活動に参加できていない昨今。仕事と子育てに追われる日々の中、普段の生活で自然を楽しめたらと、ネイチャーゲームをたま～に取り入れています。

『ネイチャーゲーム』とは??聞いたことのある方もおられるでしょう。自然(都会の公園でもOK♪)の中でゲームをしながら、五感を研ぎ澄ませてヒトをより自然に近づけてくれる、自然とより仲良くなれる、そんな手法です。

1人でもできる、簡単なゲームをご紹介します。

①音いくつ

立ち止まって目を閉じて、あたりの音を数えてみましょう。

いくつの種類の音が聞こえますか。

あなたの中の静けさと自然が響き合っていますか。

②色いくつ

自然を見つめてみましょう。

そこにいくつの色があるか数えてみましょう。



③宝さがし

自然の宝ものを探しましょう。全部見つからなくてもかまいませんよ。

- ・美しいもの一つ
- ・おもしろいもの一つ
- ・いい手触り一つ
- ・いいにおい一つ
- ・この場所のスペシャル一つ



④カメラゲーム

お気に入りの場所を見つけたら、その前で目をつぶりましょう。

頭の中を一度からっぽにしてから、シャッターを切ります。

3～5秒して目を閉じます。目を閉じたまま映像を定着させましょう。

⑤大地の窓

お気に入りの場所をみつけて横になり、大地になって身体を動かさず上空を見上げましょう。

適当な葉っぱがあれば、足の上・手の甲・顔の上などにのせるのも良いでしょう。

よろしければ、①から順番にチャレンジしてみてください。

⑤まで終わると、始める前よりきっと自然が身近になっているはずです。

新蕎麦祭り

今年「ならやま」産の“新そば”を皆さんにご披露する「新そば祭り」が、11月29日(木)に開催された。50名を超える参加者が、「取れたて」「打ち立て」「茹でたて」の文字通りの「三立て」「新そば」に舌鼓を打った。

当日は「そば・文化クラブ」選りすぐりの4名が早朝から「奈良市ボランティアセンター」に集まり、約80人分(約11kg)のそばを打つ。「二八蕎麦」である。

3時間余りかけて打った新蕎麦は、直ちに会場へ届けられる。準備万端で待ち構えていた「茹で人」が、1分以内の回転で次々と茹で上げ、流れ作業で待構えたお椀に入れる。“蕎麦”は鮮度が勝負である。火力の強い大バーナーを用意したのがここで威力を発揮する。



そばクラブ会員以外の方にも応援を頂いた。女性陣は揚げたての天ぷらを用意する。ネタは勿論のこと、薬味のワサビ大根もネギも全て「ならやま産」。畑づくりから、蕎麦栽培、脱穀、蕎麦打ちまで「全てを一気通貫で」を目指したメンバーのこだわりが会員皆さんのご協力で完璧な形で実現した瞬間だった。

“ならやま産の新そば”の手造りの味を満喫していただく今回の催しは、好評のうちに終了した。しかし、一番楽しんだのは蕎麦文化クラブのメンバーだったと思う。参加された方々から



のお褒めの言葉を肴に、晩酌が進んだ向きも多かったようだ。

今年の「そば栽培」は、夏場の数回の激しい夕立や台風の余波などで湿田での作柄が今一つであり、水はけに更なる工夫が必要だ。収穫高は30kg、乾燥玄蕎麦で25kg、これが15kgの蕎麦粉となった。来年こそは夢の60kgの収量を目指したいものだ。

「新そば祭り」は今年で3年目、「そば・文化クラブ」が発足して4年目となる。現在の会員数は23名。毎月第3金曜日、登美ヶ丘公民館の調理室で、「そば打ち自主研修」を行っている。有段者の指導の下、そば打ちの腕を磨いている。腕を上げて、今年の年越し蕎麦は自前で打つという人も多い。毎回、全国から美味しいそば粉を取り寄せ、「本物の蕎麦の味」を楽しめるのも魅力。自分は食べるのが専門、という会員もいるがこれもまた良し。



自分なりに日本の蕎麦文化に触れ、楽しみたい方、ぜひ一度お越しください。

「そば・文化クラブ」事務局 寺田 孝 記

ならやま：佐保自然の森の植樹

12月6日(木)24年度植樹行事が行われた。昨年は11月19日に奈良県、地元関係者の方々にご協力を頂き、全国植樹祭の関連行事として盛大に挙行了した。今年は奈良県風致景観課のご支援のもと当会会員により、2年目の行事を行いました。

この夏の酷暑で枯死した樹木の植え替え、整備作業、拡大された東南エリアの林の下枝落し、整枝作業、高台の花壇整備準備作業を実施した。

草刈りだけで精一杯で、昨年植樹した木々に手が回らず枯死させたことを十分反省しながら、これからの1年は出来る限り樹木を見守りながら手を掛けて行こうと誓い合った。

次の機会には、地元の方にも参加して頂き、次なる機会には子供たちが主役になる「植樹祭」と夢はつなげたい。



▲（2年目の植樹行事に集う）



▲（下枝切作業）



▲（土寄せ、水鉢づくり）



▲（切り取りの下枝整理）



▲（下枝切作業）



ならやま：彩りの森の植樹

12月13日(木) 彩りの森の植樹を行いました。

「ならやま彩りの森」は、ならやま活動地区の東の谷間部で、自転車道沿い南側にサクラを、山裾の北側にカエデを植え、谷間部の春、秋により美しい彩りを添える事業です。

去年は瀬戸内オリーブ基金の助成金などでヤマザクラとヤクシマオナガカエデなどを150本植樹しました。

今年は自転車道沿いにヤマザクラを、新たに13本と植え替えの3本の計16本を植樹しました。これでヤマザクラ35本の桜並木が完成です。ヤクシマオナガカエデの並木は昨年移植の10本が枯れましたが、今後の状況を見て移植の判断をすることにしました。



▲ (自転車道沿いの植樹作業)



▲ (植樹完了)



▲ (ヤマザクラの植樹職人たち)

作業をしながら、「いつごろ美しい桜並木が見られるかな」、「それまで元気でいろよ」、「楽しみだなあ」など、ワイワイ、フウフウ言っていました。



▲ (懸命の植樹作業)



▲ (植樹作業後、芋煮会で疲れをいやす)

ならやま名物 芋煮会

師走の中、天候に恵まれた12月13日(木)、参加メンバー約60名にて、ならやま名物の芋煮会をベースキャンプで行いました。

午前中は、彩りの森での桜の植樹、各班別の定例活動をし、午後より1年の締めくくりと感謝を込めて芋煮会を行いました。まず阿部顧問の開会挨拶に始まりスタートしました。

芋煮会の関係者は、朝9時から山形県最上川地区の室町時代から一子相伝という『甚五右エ門芋』や大阪東住吉地区の伝統野菜である『田辺大根』、そして牛蒡、人参、椎茸などの収穫をし、有機野菜をふんだんに使って料理に取りかかりました。

今回は、女性グループ、農園グループ、そして池田ご夫婦のご協力により、『芋煮』、『おでん』、『赤米おにぎり』を作り、ビールなどお酒も少々あり美味しくいただきました。



芋煮会のエピソードとして、松本武彦さんにオカリナの演奏をしていただきました。オカリナは、皆様ご承知かと思いますが、19世紀後半イタリアのジュゼッペ・ドナーティが考案した容器型フルートです。「オカ」はガチョウ、「オカリナ」は小さいガチョウを意味するそうです。別名ポテトまたはスイート・ポテトとも呼ばれています。すごく綺麗な音色に聞き入ってし

まいしました。素晴らしい！心にひびく音色にアンコールの声があり、「故郷」の演



奏に合わせて全員で合唱しました。

続いて、谷川雅邦さんが作詞された「ならやまの歌」の歌唱指導を受けて合唱を行いました。



した。ならやまの愛唱歌として皆さんが口ずさむようになればと思います。

最後に、杉山耕二さんに、ロープの結び方を教えてもらいました。手際よく結べる人、隣の方に何回も手ほどきを受けている人など、しかし、時間の経過と共に何種類かの結び方を皆さんは習得されたようです。



今回の芋煮会は、皆様のご協力により、盛り沢山な芋煮などの料理と、松本、谷川、杉山さんの余興などもあり、楽しい一日であったと思います。また来年もよろしくお願いいたします。
(富井忠雄 記)

12月例会 当尾の里を訪ねて 八木順一

前日までの寒い、そして冷たいほどの天候がこの日は一転、温かいそして穏やかな日和になりました。加茂駅に集合した人、また直接岩船寺に参集した人とそれぞれでしたが、合計25名のメンバーが当尾の里の一日のハイキングを十分堪能しました。

加茂駅発10時14分のコミュニティバスに乗り込み、最初の目的地「岩船寺」に到着。もう12月というのに、当尾の里は、まだ晩秋の風情を感じさせてくれましたが、さすが気温は低く岩船寺の庭園の池には氷……。平地とは違う、とびっくりしました。そして、最初三重塔や境内の庭園を散策したのち、本堂で「植村」住職さんから岩船寺の縁起や成り立ち等を聞き、本尊阿弥陀如来立像や普賢菩薩騎象像を含めて多くの仏像を拝観しました。お話も大変興味深かったのですが、やはり素晴らしい仏像をゆっくり目の前で見たことが一番の収穫ではなかったか、と思えました。

次に山門から石仏をめぐ
る山道に出まし
た。ミロク
の辻
(弥勒仏
線彫磨崖
仏)やワ



ライ仏(阿弥陀三尊磨崖仏)をはじめとして、カラスの壺二尊(阿弥陀地蔵磨崖仏)、アタゴ灯籠、そして藪の中三仏磨崖仏等の多くの石仏を見て回りましたが、ゆっくりとこれらの仏様を温かい日和の中でじっくり見れて良かった、という声が多く聞かれました。石仏の里というだけの仏様の数に本当に驚かされましたが、これだけでも数ある仏様の中のほんの一部とか……。しかも一体一体が笑ったり、怒ったりの個性ある表情の仏様。これだけでも参加者の興味や関心を引くのに十分でした。「またゆっくりここに来たいね。」と思いました。

昼食を温かい広場でとったあと、最後の浄瑠璃寺に。明るい日差しの中で見る本堂や三重塔、そして庭園もいつになく素晴らしく、美しい神々しいほどの浄瑠璃寺を見ることができました。ここでは、本会会員の川井さんが、このお寺の縁起や浄土について、またわかりにくい九品印(浄瑠璃寺の別名九体寺の名前の由来)も具体的な話を交えながらお話をしてくださいました。その後、それぞれ庭園



や三重塔を見学・散策したり、また本堂に入って九体の仏様に対面したりして時間を過ごしましたが、特に本堂内部のほの暗い中に座っておられる仏様から醸し出される雰囲気、の素晴らしさは、えも言われないものでした。明るい外の雰囲気と対比してのうす暗さがこういった感覚を生み出したものだ、と実感しました。浄瑠璃寺はもちろんのこと、「ここ当尾にもう一度来てみよう。」といった参加者の声も多数聞かれました。

帰路は、奈良交通バスで直接JR奈良駅へ。ここで最後のまとめをして、12月例会を無事終了しましたが、事故もなく、素晴らしい日和に恵まれたことが一番の収穫でした。



蘇我氏の興亡跡、明日香路探訪

1月27日(火)に23名の方の参加を得て明日香を歩いた。非常に寒い日ではあったが、幸い雨は降らなかった。

まずは、橿原神宮前駅から1区間バスに乗り推古天皇が即位した豊浦宮跡に建つ向原寺(豊浦寺)に向かう。寺の前の立て札にある廃仏派の物部尾輿が仏像を難波の堀江に投げ込んだが、後に拾い上げられて信濃の善光寺に奉られたいきさつを古川さんより説明してもらった。

次に甘樫丘に登った。ここは360度展望がきいて眺めがすばらしい。たくさんの方が熱心に絵を描いておられた。



北を見れば大和三山から生駒山、遠くには比叡山も見えた。西には二上山から葛城、金剛の山々、東にはひっそりと明日香の里。ここで蘇我氏の発祥の地や大王家との関係を系譜を元に説明した。馬子は大王家をも凌ぐ勢力を持ち明日香に君臨した。その後、乙巳の変により蘇我宗家は滅びるが傍系から蘇我の血は天皇家にも藤原氏にも色濃く残ったと説明する。

甘樫丘からの帰路に故犬養孝先生揮毫の万葉歌碑がある。「采女の袖吹き返す明日香風 都を遠みいたずらに吹く」有名な信貴皇子の御製である。持統天皇の時に都が明日香から藤原京に遷都されるが、明日香古京をしのんで歌った歌である。

万葉集は天皇や貴族の歌ばかりではない。名もない庶民や防人の歌なども数多く載せられている。桜井市金屋は古代には交通の要衝であり、海石榴市では連日市が開かれていた。

夜は若い男女の結婚相手を求める歌垣が行われていた。今で言う合コンであろうか。ここで歌われていた歌が万葉集に残っている。庶民は漢字を知らなかったと思われるので歌謡的に歌われていたものを万葉集の選者が収録したものであろう。「紫は灰さすものぞ 海石榴市の八十のちまたに あえる児やたれ」紫は染料の紫草で女性をさす。灰は椿の灰で触媒として使われ美しく発色させる。灰は男を指す。男が女に呼びかけ名前を尋ねている歌である。この歌の歌碑は山之辺の道にあり、今東光和尚の揮毫になるものである。これに対する女歌は「たらちねの母が呼ぶ名を 申さめど 路ゆく人を 誰と知りてか」である。古代には名前を告げることは結婚を承諾することであった。女は雑踏の中でお会いしたばかりの見知らぬ人に簡単には教えられませんわとやんわりと断っているのである。万葉集は歌うものであるとの犬養先生の教えの元、全員でこの万葉歌を歌った。



明日香に降り、飛鳥寺に詣でた。ここは馬子が建立した日本最初の寺である。

飛鳥大仏見学後昼食をとる。寺の住職さんの書いた立て札があり、飛鳥寺から南方を見た風景が古代の百済の都扶余の景色とよく似ていると書かれている。

筆者も韓国の扶余にいったことがあるが、小高い丘の点在する明日香の風景は、確かに扶余に似ていると思った。飛鳥に住んだ渡来人達も深い郷愁をそそられたのであろう。

その後県立万葉文化館へ移り、古代の富本銭を作った工房跡や万葉集にまつわる様々な展示を見て回り、文化館前にて解散となった。寒い中たくさんの方の参加をいただきありがとうございました。(文責 杉本)

平城宮庭園跡の見学&座学

12月18日は、どんより曇った生憎の天気
で、一時は小雨もぱらついた。参加者は寒さ対
策も万全にして、10時、新大宮駅をスタする。
二条大路を西へ、菰川を渡ってイトーヨーカ堂
前へ。二条大路に面して有名な長屋王邸跡の南
側に「平城京左京三条二坊宮跡庭園」がある。

昭和50年に発掘調査され、奈良時代中期、
七五〇年頃に作られた庭園跡で、平城宮の離宮、
あるいは皇族などの邸宅の一部であることが判
明した。遺跡庭園には、菰川の一部を利用した
S字型の流水の池が配される。西側には建物が
あり、ここから三笠山や東大寺、興福寺の大塔
が望めるロケーションだったようだ。S字型の
池は保存状態が良く、昔のままの姿を見られる
貴重な遺跡であること、平安時代に行なわれた
曲水の宴の歴史がここまで遡れるのではなかろ
うかなど、岩本次郎先生の丁寧なご説明に、
1300年をタイムスリップして歴史ロマンの
世界に浸る。



古梅園の見学は都合で中止となり、バスで漢
国（かんごう）神社と率川（いさがわ）神社へ。
漢国神社も率川神社も共に、推古天皇元年（5
92年）勅命により大神君白堤（おおみわのき
みしろつつみ）が勧請した奈良市最古の社であ
る。

漢国神社は大物主命（三輪の祭神）を祀り、後
に藤原不比等が大己貴命と少彦命を合祀したと
社伝にある。また、境内には14世紀、餡入り
の饅頭を広めた元祖、林浄因（りんじょういん）



を祀る「林（りん）神社」があり、菓子業界
の尊崇を集めている。

率川神社は、6月の「三枝祭」（さいくさの
まつり）で有名だが、笹百合の古名「サイク
サ」がその由来。主祭神の媛蹈鞴五十鈴姫命
（ひめたたらいすずひめ）を中に両脇には父
神の狭井大神（おおみわのあらたまのかみ）、
母神の玉櫛姫命を配祀するため、「子守明神」
の別名がある。なお、媛蹈鞴五十鈴姫命は神
武天皇の後で、古事記に記されている三輪山
神婚譚や、天つ神と国つ神等の伝承にも想い
が拡がり興味深い。



午後は、女性センターでの座学。岩本先生
の「推古天皇の登場事情」、川井さんの「社叢
のはなし」、杉本さんの「万葉秘話」。いずれ
も、現地学習のでは聞けない蘊蓄の一部が披
露され、参加者は熱心に耳を傾けていた。

この日、事務局からの「25年度の構想」
案に基づき、話し合いが行われた。出席されな
かった歴文クラブ会員の皆様には別途メール
等でお知らせして、ご意見やご提案を頂く予
定。なお、当日の参加者数は男子16名、女
子4名計20名でした。（古川祐司 記）

Monthly Repo. ならやま

◆11月22日(木) 曇り 41名

先週伐採したカシナガ被害木を、桃太郎さん方式でベースキャンプまで運びだし、焼却処分を開始。東池に金網柵が完成したので、仮の網囲いを除去。これで一安心。

会員からいろいろのお菓子の差し入れがあり、皆さんどれを食べようかと迷うこと。

◆11月29日(木) 晴れ後曇り 57名+4名

本日はソバ祭。ソバクラブメンバーが自分自身で栽培したソバを用い、日ごろの実習の成果を生かして打ち上げたソバに、女性会員によるならやま地産の野菜の天ぷらが追加されて美味しくいただき満腹。

◆12月6日(木) 晴れ 49名+1名

佐保自然の森での植樹の集いを実施。新たに移植された樹木の手入れ、既設の樹木の下枝の剪定、除去された金網の支柱跡の埋め戻し作業を行った。その結果、非常に見通しがよくなり、明るい緑地となった。

午後は通常作業に戻り、里山グループでは大木のコナラの切り倒しを始めた。ズシンと地響きをたてて倒れる光景は迫力満点であった。テント横の空き地の不法投棄物の掘り起こしは、掘っても掘っても不燃ゴミが顔を出し、悲鳴をあげさせられた。10~12月の会報クイズの成果者に赤米を進呈されたが、皆さんよくご存知で驚くばかり。クイズ出題者も頭をより一層ひねる必要があるそう。

◆12月11日(火) 曇り 3名+9名

近畿大学の北川先生以下学生さんが大勢来られ、たなご池の泥さらい。しばらく水を抜いた状態でおくので、タナゴは隣接の池と近畿大学へ避難した。



色々いるね

ペタキン
タガイ・エビ類
ドジョウ・
その他多数

◆12月13日(木) 晴れ 60名+1名



会員の胃袋に満足を与えていた農作物の収穫を感謝する芋煮会が昼に賑やかに

開催された。赤米のおにぎり、本格的なおでん、ならやま地産の野菜がいっぱい入ったぶた汁を腹いっぱい食べ、その上に暖かい太陽と焚き火、お酒が加わり、みなさん大変ご機嫌のようでした。その上にオカリナ演奏とならやま愛称歌の合唱も加わり賑やかに終わった。

朝一番に先週に引き続いて植樹の集いを行い、彩りの森にヤマザクラの植え付けを行った。我々が元気なうちに花が見られることを期待。

◆12月20日(木) 晴れ 52名+1名

朝一番、全員による本年最後の一斉清掃。毎度のことながら不法投棄ゴミが続々と集まった。

午前中は通常の活動を行い、午後は迎春準備に入り、専門家?の手による大きな門松も仕上がり、ベースキャンプの入り口に設置された。メンバーは活動の合間をぬって家庭用の小さな門松作り用の竹を切りそろえていた。

農園グループが昨年取り残したクワイの掘り取りに挑戦していたが難航しギブアップしたようである。

(文責：木村 裕)





ならやま花だより

山中笙子

12月20日(木)師走に入るとさすがに花は少ないものの、美しく輝く赤や黒の実を付けた木、早くも来春に向けて蕾を準備している木々が見られます。

赤い実を付けるマンリョウ(万両)、センリョウ(千両、センリョウ科)、カラタチバナ(百両)、ヤブコウジ(十両)、ツルアリドオシ(一両、アカネ科)の揃い組と言いたいけれどセンリョウは未確認。センリョウ以外は葉の下に実を付け、其々名前どうりの観賞価値があり、お正月の縁起物として飾られます。高額なほど木の丈も高いです。ならやまのカラタチバナは白実と赤い果柄が可愛らしく素朴な感じのシロミタチバナです。他にキミタチバナもあるようです。

センリョウ、ツルアリドオシ以外はヤブコウジ科。



【草花】 ノハラアザミ、ヒメジョオン、フユハナワラビ、シハイスミレ

【木の花】 チャノキ、ヤツデ

【木の蕾】 ロウバイ、コブシ、ヤブツバキ、ミツマタ、ジンチョウゲ

【木の実】 カナメモチ(赤)、サカキ(黒)、ヒサカキ(黒実と蕾)、ナンテン、センダン(黄)、マンリョウ、シロミタチバナ、ヤブコウジ、ツルアリドオシ、ゴンズイ

【花壇】 パンジー

ペタキン日記 ⑧

羽尻 嵩

**「ならやま」の生き物たちから 皆さんへ
あけましておめでとうございます**

今年の師走、タナゴ池では次のようなことがありました。

10日…近大班の協力で、「ならやま」に残す生き物たちの仮の宿となる保管池が造られました。

11日…近大班による池の水抜きと生き物の捕獲作業が行われました。ポンプで水抜きをして、池の中の生き物はすべて網で捕獲されました。

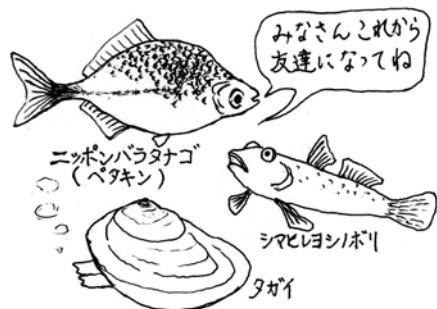
泥の中まで捜されたので、作業は10時から1時半ごろまでかかりました。

〔捕獲された生き物〕ペタキン255個体、シマヒレヨシノボリ1個体、モツゴ5個体、ドジョウ5個体、タガイ14個体、エビ類(ミナミヌマエビ、スジエビ)1000個体以上。その他、どこから入り込んだのかヒキガエル1匹。柵の奥からいやいや這い出してきた体長10cm以上のザリガニ1匹(池の主面をしていた)。小型ザリガニ数匹。

ペタキンの半数と貝・ヨシノボリは近大に持ち帰られ、残りのペタキンとエビ・ドジョウなどは保管池に入れられました。

タナゴ池でペタキンの育種に成功した原因としては、

1. 池内の水量と水の流れを確保し、水中の酸素量を保持したこと
2. 池の中の夏草を茂らせたままにして、日陰を作り夏場の水温の上昇を抑えたこと
3. アメリカザリガニの駆除を徹底したこと
4. 水が魚にとって適度な栄養をふくんでいたことなどがあげられると思います。



ウスタビガ

菊川年明

先月（12月）、本会ホームページの「ならやま里山林の昆虫」にウスタビガの繭を紹介したが、その直後の12月初旬、第5地区の近くでウスタビガ（成虫）に出会った。

ウスタビガはヤマモリガ科に属するととても大きなガである。いたのはメスで、翅の開帳は100mmくらいと思われた。雌雄の違いの顕著なところは、翅の開帳と色彩である。翅の開帳はオス85mm前後、メスは100mm前後、色彩は大まかに言えばオスは茶色、メスは黄色である。雌雄ともに前翅、後翅に各1個（全体では4個）の丸い銀白色紋がある。

夜行性で、昼間は林の中でひっそり止まっているので、その姿を目撃する機会は少ない。このガは通常10月～11月に現れるので、12月に見かけるのは珍しい。



約半年前の6月のバードウォッチングの日にならやまの一隅で幼虫が繭を作っているところに出会った。このような場面に出会うのはたいへん希有なことである。緑色の美しい繭は大方できあがっていて、繭の蓋を閉じているところであった。

しかし、残念なことに、この繭は数日後に通ったときには誰かに持ち去られたのか、なくなっていた。



♪ならやまパトロール隊・12月報告♪

守口京子

ひとりパトロールからパトロール隊へ

ひとりでの楽しい思い出がいっぱいある。真っ白い花のこぼれるアセビが続く道、ニョキニョキ、ベニイグチ、深緑に赤の冬のアオキ、黒紫の小さい蘭、コ克蘭、つやつや、しっとりのシダと苔、写真撮影、杭打ち、歩いたり、走ったりの気ままなパトロールだった。新編成パトロール隊は頼もしい。ゴミ拾い、道作り、草刈り、枝払い、枯れ木の片づけ、立て札作り、記録つけとどんどん活動が進む。参加してくれたメンバーに感謝感激。11/29は紅葉の中のパトロール。タカノツメは黄、コシアブラは白、コナラはオレンジ、ヤマコウバシは黄土色、その他色とりどり。落葉樹がこんなにあるとは思わなかった。とりわけコバノガマズミのピンクの紅葉は感動もの。12/9は道しるべ設置個所を検討しながらのパトロール、いい観察路になりそうな予感。

メンバー以外の皆様には同行をお断りし、いけずを言ってごめんなさい。まもなく下見を終えたメンバーが、皆様をご案内してくれるはずです。

自分とメンバーに言いたいこと

♪ 仲良くいたわり合って活動しよう…若いも若きも、活動経験の長短に関わりなく、出来ることは進んでやり、お互いに労をねぎらい、感謝の気持を持って活動しよう。

♪ 脱企業戦士…「ノルマなし、ゆっくりやろう」が、ずっと前からの会の合言葉。山歩き、自然観察をうんと楽しんで、ぼちぼち、ほどほどに作業をしよう。



ならやま里山林のタカノツメ

やさしい昆虫講座②

木村 裕



吸血鬼の王子さま、王女さま

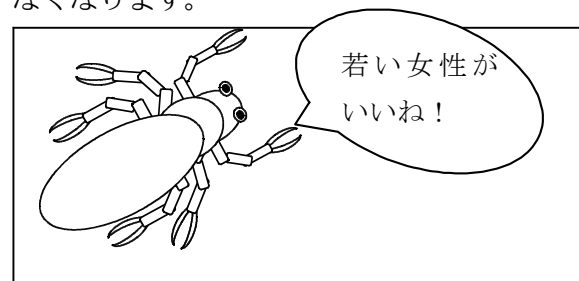
12月の初め頃、NHKのテレビで「殺虫剤の効かない虫」という題で「スーパーナンキンムシ」が取り上げられていましたが、ご覧になったでしょうか？人間の血液を常食にしている貴公子、ナンキンムシ、ノミ、シラミ、みんな昆虫の仲間です。懐かしい虫かと思います。これらの虫たちは、終戦直後は我が世の春を謳歌していましたが、DDTの頭、首筋への降りかけによって打撃を受け、その後衛生状態が改善されるにつれて生活の場を奪われ、減少の一途で若者では見たことがない人も多いようです。

テレビ放送によると、近年世界各国で殺虫剤に抵抗力を持ったナンキンムシが増えつつあるとのこと。これらの貴公子たちは畳の隙間、ベッドの陰に潜んでいます。バルサンなどの煙の殺虫剤で燻蒸することにより被害は収まっていた。この殺虫剤の成分は有機リン剤が主流でしたが、合成ピレスロイドが開発され、ゴキブリに対しても効果が高いことから、ほとんどの燻蒸剤がピレスロイド剤に変わりました。蚊取り線香もピレスロイド剤です。そこで全滅の危機に瀕したナンキンムシ一族は、この薬剤に対して抵抗力のある息子と娘を選び出し、優秀な？子孫を残すように仕向け、その成果が殺虫剤の効かない子孫の復活・繁栄です。

ナンキンムシはカメムシの仲間で、長い口吻で血液を吸いとります。それゆえ触ったり押しつぶしたりするとカメムシ特有の悪臭を出します。成虫も幼虫も同じような姿をしていて、昼間は畳や柱の隙間に潜み、寝静まった頃に這い出して美味しそうな獲物を探して食事を摂ります。目っこをつけれないようにしましょう。

親戚のサシガメムシの仲間は毛虫などの昆虫の体液を吸っています。シラミは主として哺乳動物に寄生して血を吸いますが、動物によって寄生する種類は異なっています。人間にはヒトジラミ（頭にはアタマジラミ、体にはコロモジラミ）とケジ

ラミがつきます。犬ではイヌジラミ、猿ではサルジラミです。手足の先はカニのはさみのようにつまむようになっていて体毛にしっかりしがみついています。羽がないので移動は歩行に頼っていますので、この虫を飼っている人とは仲良くしないほうがよいでしょう。この虫によく似ていて鳥に寄生するのがハジラミです。口は噛むタイプでもつばら鳥の羽をがりがり齧ります。そのため、鶏では神経質になり、卵を産まなくなります。



ノミは進化したグループにはいり、威張っています。成虫は羽がなくても丈夫な脚があり、体の何十倍の距離も一飛びです。幼虫は細長いウジ状の虫で、畳の隙間や下、柱の隙間などに住み、有機物（ゴミ）を食べて成長し、蛹を経て丈夫な鎧をまとったノミ（成虫）になります。ゴミ屋敷、お菓子など食べこぼしの多い家庭、掃除嫌いな家庭は大歓迎です。招待されればすぐに飛んで行くそうです。種類は寄生する動物によって違います。人間にはヒトノミ、猫にはネコノミ、犬にはイヌノミですが、猫や犬を可愛がるとそのノミが人に飛び移ることがあります。ノミは、「しまった！」と反省するものの、美味しくはないが「まあ、いいか！」とボヤキながら愛犬家の血も吸います。ネズミに寄生するスナノミもしばしば人につきます。水の中にすむアザラシにも独特のノミが寄生します。

ノミやシラミは大切な大家が亡くなると急遽新しい住処となるカモをきよろきよろ探しまわりますので、動物の死骸にはよりつかないほうがベターです。

鳥シリーズ 小田久美子

初夢の鷹

皆さんは今年どんな初夢を見られましたか。少し前まで、初夢には「一富士・二鷹・三なすび」が縁起の良いものとされました。その謂れの諸説を拾い読みしてみますと、①富士が一番高い霊山、鷹が一番強い鳥、そして茄子は「成す(成就する)」に繋がるという説。②家康が駿府に居た頃三保に遊びに行った時、4月だというのに茄子がなっていたのでこれは珍しいと買おうとしたら高価な値段を云われた。その時家康が「駿府で高いものと云ったら、富士山と愛鷹山(鷹)だけだと思っていたが茄子も高いものの一つだ」と云ったという話が諺になった説。③「富士」曾我兄弟が富士山の裾野で工藤祐経を撃った。「鷹」赤穂浪士討ち入りの元となった浅野内匠頭長矩の紋が鷹の羽。

「なすび」荒木又右衛門、渡辺数馬の仇討ちの場所が茄子の産地という三大あだ討ち説。などがあります。そしてもう一つ、富士山も鷹狩りもなすびも駿府にあって、家康公の好物だからというのを讀んだ記憶があります。

どれもが「静岡」に由来があるようです。「二鷹」。荒々しく威風堂々、憐とした鷹は、普通には見られない鳥だからこそ憧れの対象となりましたが、もし近所で普通に見ることが出来る鳥だったらブランド価値もぐっと下がるのでしょうか。



12/15、桜井でヒレンジャク13羽という情報がありました。

小田

地域情報1月号



【斑鳩】いつもは大和川対岸の河合町の河原の草の中にいるキジが10月23日より斑鳩町の河原で見かけます。キジが出てくるところは草の入り口がアーチ型になっています。

11月22日イカル2羽を観音さん前で見ました。昨年10月から今年5月まで1羽も見えていなかったのも、今年は多く見られるのではと楽しみです。斑鳩町の住民はイカルに思いが強いですが(町の鳥と思っている人もいるのではないのでしょうか)でも、斑鳩の鳥は決まっています。

◆28日三室山上空を旋回する鳥の群れがいました。その数7・8百。そばにいた人とすごいですね。木に止まったので見ると、アトリでした。3時頃に見ると数は減っていました。30日には3百くらいでした。それから毎日アトリが来てくれています。アトリは多い時は何万羽とかで来るとのこと、これくらいだったら珍しくないのかもしれませんが、私にとっては大ニュースです。(勝田 記)



美味旬感

セイヨウカラシナ、セイヨウアブラナ

春を待つ十字花草を味わう

アブラナ科のものは種類も多く、ほとんどの物は食べられる。春になると急成長し、花が咲く。河川敷や土手を黄色いじゅうたんで染めるのはセイヨウカラシナの大群生である。

外来種のセイヨウカラシナとセイヨウアブラナはよく似ておりあちこちで見られるが、セイヨウアブラナの方は葉が少し厚く、粉をはいた様に白っぽい。葉の基部は茎を抱く。セイヨウカラシナは花が少し小さく、茎も細く、葉は茎を抱かない。

本来は早春に葉や花を食すのであるが、1月にはこれらの若葉が早や土の上に芽吹いているのを探して摘む。どちらも食べられるとは言え、前に寺川の土手に群生しているセイヨウカラシナの葉や花を摘んで漬物にしてみたが、辛くて食べられなかった。両方とも生えている土地のアブラナ科のものと交雑するらしく場所による

西谷範子



個体差がある。

しかし、この季節の幼葉は成葉よりやわらかく辛味も少ない。摘んだ葉を試食してみても自分に合ったものを見つけない。ならやまにも生えているが硬い。腐葉土の多いところのものはやわらかくうまい。私の穴場は毎年探鳥のついでに採る琵琶湖周辺で、雪の中から摘んで早めの春を味わう。

料理は栽培物のアブラナ科のものと同じで、ごま油でいためてしらす干しなど混ぜ塩か醤油で味付けたり、さっと茹でてハッサクやグレープフルーツとサラダにしたり、ユズや塩コンブで香り漬けなどいろいろ工夫できる。生葉の時は他の野菜類と混ぜて使おう。辛いものは茹でて辛味とアクを抜く。

変わったところでは小麦粉を卵水で溶いて、葉をきざんでどっさり混ぜ、小さなお好み焼きを作ってポン酢などで食べるのもよい。

奈良学クイズ



大和名所圖會：寛政3年(1791)によると松永久秀の城跡の南側に位置し、多宝塔があったが、図は三重塔として描かれるが、怪しげな描写ではある。しかし、三重塔に描かれたわけとは次のようにも思われる。即ち、松永弾正は〇〇寺を毀ち多門城を築城すると云い、毀された古の〇〇寺には三重塔があったと伝え、その残影とも解釈される。号を佐保山と称した。室町期衰微したが、文正元年(1466)行明上人が再興したと伝える。

文久2年(1862)に寺院は撤去、明治維新で廃寺となる。この寺院の名称をお答えください。



◆正解の方(1名)に、赤米を進呈します。

◆応募方法は、メール (編集チーム・鈴木宛) でお願ひします。

※応募締切は、1月5日です。

Gallery ならやま

①



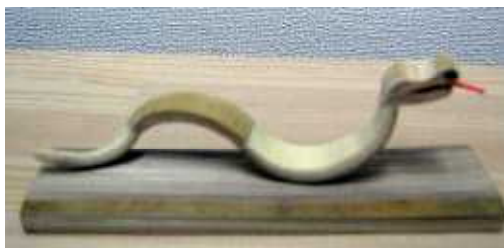
②



③



④



⑤



⑧



⑨



⑪



⑩



⑥



⑫



⑦



自然体クラフト

⑬



①～⑧ 田中克彦 ⑨⑪ 村上雄之 ⑩⑫ 木村 裕 ⑬ 鈴木末一

錦秋にかんばせ染めて飛鳥寺

八木順一

十一月例会。今年の紅葉は素晴らしい。
大自然の贈り物に、頼まれて染まる。

明日香路に紅葉透かして日矢の射す

八木順一

晴朗なれど冬の気配が漂う。
鈍い冬の日差しに色葉が映える。

首塚や野菊手向けし人は誰

古川祐司

入鹿の塚に供花が絶えない。
若い女性ファンが増えて居るそう。

待ちわびて蕎麦に差し出す椀椀椀

古川祐司

ソバ祭り。自前の蕎麦にヤンヤヤンヤ
日頃、鍛錬の技に屋台は大忙し。
椀のリフレインが面白い。

自然俳句

監修 川井秀夫



甘樫の冬の皇帝ダリアかな

川井秀夫

古代の飛鳥には不似合いだが、見事な
美しさが印象的。

女帝時代の化身か、入鹿の亡霊か。

新蕎麦やみんな多弁で大食いで

川井秀夫

そば研の晴舞台。玄人はだしの手打ちは格別。
さあサ、お代わりお代わり。食べる時は無言。

忘年会こころの湯気にさんざめく 川井秀夫

十二月例会。冬ざれの当尾の里。冷えた体に熱燗がジンとくる。
こころ一つの仲間たち。明日もお元気で。

山の神田の神も来て収穫祭

川井秀夫

今年のならやまも大団円。神々も共に豊饒を祝う。
行く年も、来る年も幸あれかしと。

癒しの散歩道

麗しき年の朝明けに日は又昇る

谷川 萬太郎

大空に翼ひろげた新しき年の朝明けに
眩しく光る雪原を仰ぎ夢幻の世界拡がる
遠く気嵐の彼方に咲く霧氷の華の宝石
気高く明るい陽ざしを浴びる初春の躍動よ
冬の地平線にも聞こえしは未来の産声か
固い蕾の梅の花密やかに時の春を待つ



まるで刻む時の流れが止まるよに静けさが
辺りを優しく包み尊き自然の雄姿目に浸みて
生まれ変わる喜びに木枝に積もる淡雪光る
季節の影絵が山辺に拡がる雪肌を滑ってゆく
忘れじの過去の季節の名残は今も心に懐かし
辛くとも我が心は空に羽ばたく時の出番を待つ

ならやま論

「エンディングX'mas」

竹本 雅昭

～バッサーとコナラは倒れた・・・が～

大ナラ：アッ痛・・・何すんねん。

小ナラ：すんません、おっちゃん。

大ナラ：こら！おっちゃんて言うな、人間
で言うたら30そこそこやど。さ
っきからどっちへ倒れても掛りそ
うだと見てたけど、まったく。

小ナラ：兄ちゃん、えらいことになったわ。
ガッチリ枝がからんで宙ぶらりん
や。

大ナラ：早よ何とかしてもうて、しんどい
がな。俺も近々あんたと同じ運命
やろうけど。

小ナラ：人々がロープを右左に切れる位引
っ張って努力してくれたはります。

大ナラ：もうちょっと年輪が欲しそうな顔
しとったけど。

小ナラ：よくご存知で、今年も皆さんや紅タ
ケ・白タケ・紫タケのきのこさんらと、
X'masソングをコーラスしたか
ったです。

大ナラ：そうやな、CO₂ 消化で頑張ってきたけど、最近はナラ枯れが流行で
我々にきくワクチンがないようやし
・・・。

小ナラ：これからは楢木としてのんびりしま
すわ。太い幹は薪となって“そうや”
ひよっとすると『ペチカ燃えろよ・
・・・♪♪』でホワイトX'masを
楽しめるかも。

～ついにコナラは山側へ倒され往生した～





隠れ古社寺 ひとり旅 ④

紀氏神社・檜本神社・長楽寺

歴史文化クラブ

川井秀夫

平群(へぐり)とは、妙な語音を感じさせる。
飛鳥時代 都から北西にある辺境の地として「辺の国」と呼ばれ、時代と共に転化したと言う。

近時、住宅開発が進み様相は変わりつつあるが、古代遺跡の多い土地柄で、生駒山地と矢田丘陵に挟まれ、この平群谷一帯には上代の匂いが満ち溢れている。

今日は数ある探訪コースの一部をぶらりと歩く。

紀氏(きのうじ)神社(辻の宮・椿の宮とも)

駅から北へ15分、矢田丘陵に向かう坂の上に鎮座する春日造り銅板葺の一間社の社殿がみえる。

祭神は木菟宿禰。紀氏は平群氏と同族で係累を辿ると武内宿禰に当たる。当時、奈良西南部には葛城・蘇我・巨勢・波多らの豪族も割拠し、彼らも雄藩であった。この時代紀氏には、紀直(きのあたひ)紀臣(きのおみ)の兄弟が権勢を極め、前者は紀伊の国造りに在地豪族として、後者は大和王権の水軍として名を馳せる。子の鮪(しび)真鳥(まとり)の時代、雄略天皇の後妃影姫に懸想し、天皇の怒りを買って衰微の道を辿ったと言う。

社の座小屋が面白い。祭祀の際、近村の長を招く特別席であった様だ。社叢は崩れ往時の姿は無い。



この地は、小菊の一種“寒菊”の栽培が盛んで日本一の生産高を誇る。冬の日差しに菊畑が目につく。

寒菊の蕾み整ふ日和かな 秀夫

やがて竜田川の早瀬の音が聞こえる。万葉の歌人が恋の相聞歌を交わした情景が続く。

ちはやぶる神代もきかずたつたがわ

からくれないに水くくるとは 在原業平

檜本神社

生駒山地に向け西に下る。田畑の中に照葉樹林の森が見える。祭神は菊理姫命。水榎に宿り水滴の神として祀る。雷難除去にも篤い神とあり、農耕神として村の信仰が絶えないと言う。



社域には奇形の石灯籠・手水石・湯釜など石の造形物に目を奪われた。

ふと森副会長の顔が浮かぶ。ならやまの「カシナガ」の被害防止に願かけをする。榎の木に宿る神様頼みまっせと・・・。

竜田川を離れ平群駅に向かう車道に面して古寺が建つ。勝出山長楽寺とある。用明天皇期(586年)聖徳太子建立とあり、太子が物部氏との戦いに破れ、軍勢を立て直し、石上(鑑石として寺内に残る)にて我をして戦に勝たし給はば必ずここに寺塔を建て、神仏を弘通せんと。

毘沙門天現れ軍法の授けあり、戦勝を得る。

本尊聖観音立像は勝出山観音として尊崇されている。

このコースには長屋王墓・吉備内親王の双墓があるが、この稿から敢えて割愛させてもらった。

信貴山の山端に、鈍い冬の日が傾き帰路につく。



ならやま景観整備 & 情報BOX



♪ 活動予定日 ♪

1 月	10 (木)、17 (木)、24 (木)、 31 (木)
2 月	7 (木)、14 (木)、21 (木)、 28 (木)

《農園グループ》

- 1/10：新春初出会、餅つき
- 1/17：大根、野菜類収穫、堆肥づくり、
水田にチップ散布・水路整備
- 1/24：各種野菜類収穫、堆肥づくり、
水田にチップ散布・水路整備
- 1/31：各種野菜類収穫、堆肥づくり、
玉葱第2回目追肥

《景観・環境ビオトープグループ》

- 1/10：景観 第5地区草刈り B G 北側空地の整備
環境 寒肥施肥と畝立て
ビオトープ ならやま池の水生生物調査
タナゴ池・保管されていた生物の
復帰 (近大班・・予定)
- 1/17：景観 1/10に同じ
環境 紅白アスター剪定、サザンカ移植
ビオトープ (午前) ならやま池の水生生物科
による調査と (午後) 水抜き
- 1/24：景観 1/10に同じ
環境 パンジー草取り施肥、日蔭植物
寒肥
ビオトープ ならやま池の泥除去作業
- 1/31：景観 1/10に同じ
環境 ビオトープ 地の草取りとシラン移植
ビオトープ ならやま池の泥除去作業

《里山グループ》

- 1/10：新規第5地区 笹刈・杉の木の間伐
第2皆伐実験地 伐採木の薪割り
ならやま里山林 里山林維持管理作業

- 1/17：新規第5地区 1/10に同じ
第2皆伐実験地 薪小屋の製作・薪割り
ならやま里山林 1/10に同じ
- 1/24：椎茸栽培 コナラの玉切り
新規第5地区 第2皆伐実験地
ならやま里山林 1/10に同じ
- 1/31：1/24に同じ

行事案内

〈2月例会予告〉

檀原神宮探鳥会 冬鳥(カモ・タカ・小鳥)

日程：2月26日 (火) 9:00
集合場所：檀原神宮前駅・中央改札口
担当：勝田
小田

詳しくは会報2月号で御案内します。



(檀原神宮深田池榛原・田中撮影)

新春講演会 1月26日 10:00 ~ 12:00

「地球環境問題について」 長澤 忠彦 先生

- ・日本の公害問題は終わったのか
- ・熱帯雨林の減少
- ・日本でも砂漠化が
- ・オゾン層の破壊はストップしたのか
- ・地球温暖化は防止できるか
- ・ますます進行する世界的な水不足

長澤氏は鉄鋼会社に勤務して、その大半を環境問題に関する業務に携わり、現在は大学講師のかたわら、途上国への技術移転活動やロシア各地での排出権取引についての環境ビジネス講座など、国際的にも広く活躍されておられます。

〒630-8001 奈良市法華寺町888-7